

腎代替療法に関する意思決定支援における 日本腎不全看護学会のステートメント（案）

2020年4月に公開された、日本透析医学会による「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」を受けて、腎代替療法に関する意思決定支援における本学会のステートメントを作成しました。

本学会は、腎代替療法に関する意思決定支援において、「支援を必要とする人々の人間としての尊厳を維持し、人々の健康で幸福な生活の実現に貢献する使命と、その人らしく生を全うできるように援助を行う」という看護の目的（日本看護協会，看護者の倫理綱領）をもとに、対象者にとって最善の選択となることをめざします。本学会員の方々、看護職を含めた医療・介護従事者の方々、行政、社会の人々に対して、下記のように発表します。

1. 腎代替療法に関する意思決定支援に対するケアの在り方
2. 対象者の意思決定と医療・ケアチームの協働支援
3. 対象者の知る権利及び自己決定の権利の尊重と擁護（アドボカシー）
4. 対象者との共同意思決定に向けてのACP（アドバンスド・ケア・プランニング）
5. 人生の最終段階における透析見合わせと保存的腎臓療法（CKM）

1. 腎代替療法に関する意思決定支援に対するケアの在り方

腎代替療法に関する意思決定支援において、対象者の生命、人格、尊厳が守られることを判断と行動の基本とし、自己決定を尊重します。また、対象者が安定して正しく理解し判断できるよう、急激な病態の進展を予防し、全人的な苦痛の緩和に努めます。対象者が生活で大切にしていること、価値観、信条などを丁寧に聴いて尊重します。個別的特性やニーズに応じた看護を提供しながら、対象者が自律して腎代替療法の選択を意思決定するまで寄り添います。治療選択に伴う生活の変化を示して、対象者にとって自身の暮らし・生き方への影響を想定できるよう支援します。

2. 対象者の意思決定と医療・ケアチームの協働支援

支援において、倫理原則、日本看護協会の看護者の倫理綱領を重要視するとともに、かけがえのない存在である個人と全人的に向き合って共感することを大切にします。また、対象者と信頼関係を築き、腎代替療法の選択における対象者の積極的な参加を支え、多専門職種から構成される医療・ケアチームと協力して意思決定を支援します。

3. 対象者の知る権利及び自己決定の権利の尊重と擁護（アドボカシー）

腎代替療法の選択において、対象者の知る権利と、自己決定の権利を擁護し、対話による共同意思決定をめざします。対象者が、知りたい情報を十分に得られるように、理解度や意向を確認しながらわかりやすく説明し、意思表示をしやすい場づくりに努めます。また、対象者の意思を代弁し、対象者を中心とした支援体制を築くように調整します。

対象者が重要他者、医療者と話し合いを重ねて自己決定した選択を尊重します。また、対象者が知らないという選択や決定を他者に委ねるといった選択をする、その意思を尊重するとともに、自分自身で選択することができるように支え、対象者の判断や選択が、そのとき、その人にとって最良のものとなるように支援します。

4. 対象者との共同意思決定に向けての ACP（アドバンス・ケア・プランニング）

アドバンス・ケア・プランニングの話し合いにおいては、真摯な姿勢で、対象者をありのままに受けとめ、対象者が大切にしていることを最期まで大切に支持します。「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関わるガイドライン」等に準拠して、対象者が QOL を高く維持し、最期までその人らしく今を生きることをめざして支援します。本人にとっての最善の医療・ケアの方針に関して、意思の変化を想定して繰り返し話し合います。また、対象者の意向を記録し、対象者に、事前指示書を作成する権利があることを説明します。

5. 人生の最終段階における透析見合わせと保存的腎臓療法（CKM）

透析の見合わせの検討においては、患者や家族に見合わせ以外の方法についても情報提供し、繰り返し意思を確認します。また、CKM を選択して透析を見合わせた際も、患者の病状の変化等に応じて、適宜その意思に変更がないか、家族らと共に確認します。そしていかなる時も、対象者と家族の不安や苦痛をできるだけ緩和するように努めます。

対象者が在宅での看取りを希望した場合は、看－看連携，病－診連携を強化し、地域の保健師や訪問看護、介護従事者と連携してシームレスに患者・家族を支援します。